
宮崎県埋蔵文化財センター一年報

第3号

平成10
(1998)
年度

1999

序

本年報は宮崎県埋蔵文化財センターが平成10年度に実施した各種事業の成果をまとめたものです。

宮崎県埋蔵文化財センターも、平成8年の独立以来4年目を迎え、東九州自動車道関連の調査事業も西都～清武間の現地発掘調査を終了し、現在は報告書作成に追われています。

埋蔵文化財をとりまく環境には、依然きびしいものがありますが、当センターとしましても、発掘調査のみならず教育普及の分野でも一層の成果をあげるよう努力いたしますので、関係各位のご理解とご援助をお願いいたします。

平成12年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長 田 中 守

目 次

I	平成10年度の活動状況	1
1	埋蔵文化財緊急調査	1
(1)	発掘調査	1
(2)	発掘調査に伴う特別調査員の招聘及び資料調査	4
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	6
(4)	保存処理	7
(5)	収蔵整理	8
2	教育普及活動	9
(1)	展 示	9
(2)	埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」	9
(3)	施設公開	11
(4)	現地説明会	11
(5)	埋蔵文化財専門職員研修会	11
(6)	広報出版物	11
(7)	資料等の提供	12
(8)	研修・体験学習等の受入れ	13
(9)	会議・職員研修	14
(10)	職員派遣	14
II	組織・施設	17
III	埋蔵文化財センターの沿革	18
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	19

I 平成10年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の発掘調査及び研究
- 2 出土品その他の資料の保存活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財保護思想の普及啓発

平成10年度は以下に記述する事業を実施した。

1 埋蔵文化財緊急調査

(1)発掘調査

東九州自動車道建設や国道をはじめ、国、県施設の建設に伴う分布調査や確認調査、発掘調査を実施しているが、平成10年度は古城遺跡（高千穂町）、林遺跡（延岡市）、内城跡（佐土原町）、迫内遺跡（宮崎市）、大鹿倉遺跡（高原町）、大島畠田遺跡（都城市）など18遺跡を本調査した。各々の遺跡の概要については、別に刊行する『平成10年度埋蔵文化財発掘調査一覧』を参照されたい。

平成10年度発掘調査遺跡等一覧

①分布調査

対 象 事 業	実施期間	調査担当
東九州自動車道（西都－都農間）建設予定地遺跡分布調査	平成10年5月11日～ 平成10年6月5日	面高哲郎・吉牟田浩一・日淺雅道 橋本英俊・田内幸子

②確認調査

	遺跡名	主な時代	所在地	調査原因	調査期日	調査面積	調査担当	主な遺構・遺物
1	枯木ヶ迫	古墳・中世	宮崎市郡司分	宅地開発	平成10年7月27日		石川悦雄	

平成10年度発掘調査遺跡一覧

	遺跡名	主な時代	所在地	調査原因	調査期間	調査面積	調査担当	主な遺構・遺物
1	上ノ原	旧石器, 縄文早期～晩期, 平安	佐土原町大字西上那珂字上ノ原	東九州自動車道建設	平成10年4月6日～平成10年6月11日	(㎡) 11,100	本本 剛 時任和守 日高広人	陥穴48, 集石遺構16, 炉穴群4, ナイフ形石器, 台形様石器
2	迫内	古墳, 中世	宮崎市大字富吉字迫内	東九州自動車道建設	平成10年5月18日～平成11年3月31日	4,400	小山 博 倉永英季 福松東一 菅付和樹 山田洋一郎	古墳2, 横穴墓2, 墳丘1, 石塔群, 磨崖線刻板碑, 建物跡4, 須恵器, 鉄器, 土師器, 鉄製茶釜, 瓶子
3	大辻屋敷	古代, 中世	西都市大字黒生野字大辻屋敷	東九州自動車道建設	平成10年9月16日～平成10年11月24日 平成11年2月8日～平成11年2月22日	700	福松東一 橋本英俊 日高広人	畝状遺構2, 甕, 杯, 布痕土器, 須恵器(大甕)
4	友尻	古代～中世	宮崎市大字富吉字友尻	宮崎西インター建設	平成10年4月1日～平成10年4月23日	1,740	川崎辰巳 柳田晴子	水田跡, 土師器等
5	柿迫	縄文早期～晩期 近世, 近代	宮崎市大字糸原字柿迫	倉岡ニュータウン建設	平成10年4月20日～平成10年9月25日	4,500	久木田浩子 橋川敬子	集石遺構1, 竪穴状遺構1, 土壇11, 掘立柱建物6, 帯曲輪, 貝殻条痕文土器, 石鏃, 磨製石斧, 陶磁器, 五輪塔等
6	古城	縄文早期 弥生中期～後期	高千穂町大字三田井字古城	県営広域営農団地農道整備事業	平成10年4月20日～平成11年1月22日	8,000	和田理啓 福田泰典 柳田晴子	竪穴住居13, 土壇3, 溝状遺構, 集石遺構20, 黒色研磨研土器, 押型文土器, 打製石斧, 土師質土器, 石鏃等
7	林	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳, 中近世	延岡市伊形町	延岡道路建設	平成10年5月6日～平成11年3月25日	14,400	東 憲章 鈴木健二 黒木欣綱	大型掘立柱建物8, 牛馬埋葬土壇5, 祭祀土壇1, 五輪塔群, 石組井戸, ナイフ形石器, 三稜尖頭器, 鉄短刀, 銅鏡等
8	王子原	縄文時代後期～晩期	都城市安久町	都城盆地農業水利事業	平成10年5月18日～平成10年9月29日	1,500	高橋 誠 下田代清海	竪穴住居5, 石囲い炉1, 溝状遺構1, 土壇17, 轟B式土器, 黒色磨研系土器, 阿高系土器, 石斧, 石剣, 石皿等
9	畑田	中世	都城市横市町字畑田	農用地総合整備事業	平成10年5月20日～平成10年9月30日	2,000	甲斐貴充 南正覚雅士 廣田晶子	水田跡13, 土師質土器, 中世陶磁器, 鉄器
10	嫁坂	縄文後期～晩期, 弥生古墳, 中世	都城市梅北町	農用地総合整備事業	平成10年9月10日～平成10年12月24日	1,500	谷口武範 高橋 誠 橋川敬子	水田9, 土壇2, ビット, 縄文土器, 土師器, 陶器, 磁器磨製石斧, 黒曜石

遺跡名	主な時代	所在地	調査原因	調査期間	調査面積	調査担当	主な遺構・遺物
11 元地原	縄文早期	西都市大字上三財字元地原	地方特定道路整備事業	平成10年9月16日～平成10年10月23日	(㎡) 280	鈴木健二	集石遺構1, ビット群, 縄文土器, 敲石, 石鏃, 黒曜石剥片, チャート剥片
12 枯木ヶ迫	古墳, 平安, 近世	宮崎市大字郡司分字深坪	希望ヶ丘西土地区画整理事業	平成10年10月5日～平成11年3月31日	10,000	久木田浩子 廣田晶子	竪穴住居15, 土壇8, 畝状遺構, 五輪塔, 板碑, 近世墓, 貝殻条痕文土器, 市来式土器, 土師器, 須恵器, 陶磁器, 刀子, 管玉, 木製品
13 太鹿倉	弥生, 古墳	高原町大字広原	畜産試験場生産基盤整備事業	平成10年10月26日～平成11年3月31日	5,015	南正覚雅士 下田代清海	陥穴4, 土壇1, 竪穴住居1, 掘立柱建物2, 鉄鏃, 刀子, 石鏃, 扁平打製石斧, 石包丁
14 圃	中世, 近代	佐土原町大字下那珂字圃	埋蔵文化財センター新館建設事業	平成10年10月27日～平成10年11月2日	50	谷口武範 日高広人	土師器
15 梅北佐土原	縄文早期～後期, 中世	都城市梅北町	農用地総合整備事業	平成10年11月10日～平成11年2月16日	3,200	甲斐貴充	集石遺構1, ビット群, 縄文土器, 中世土師器, 石鏃
16 大島畠田	平安, 鎌倉	都城市金田町	農用地総合整備事業	平成11年1月13日～平成11年3月31日	8,000	谷口武範 和田理啓 橋川敬子	掘立柱建物3, 溝状遺構7, 土壇, 緑釉陶器, 灰釉陶器, 起州窯青磁, 玉縁口縁白磁, 布痕土器, 須恵器, 染付
17 花緑	近世	都城市花緑町	木材加工センター建設	平成11年2月1日～平成11年3月30日	800	和田理啓 柳田晴子	土師器, 陶器
18 内城跡	旧石器 中世, 近世	佐土原町大字東上那珂字内城	一般国道219号道路改築事業	平成10年11月16日～平成11年3月29日	5,500	福田泰典 鈴木健二	集石遺構13, 磨製石斧, 石鏃, 石皿, 押型文土器, 貝殻腹縁文土器, 土師質土器, 陶磁器
19 中尾	古墳, 中世	都城市葦原町字中尾	農用地総合整備事業	平成11年2月22日～平成11年3月5日	1,800	和田理啓	畝状遺構, 土師皿, 土師器

(2) 発掘調査に伴う特別調査員の招聘及び資料調査

慎重な調査を要する遺跡、遺構の調査にあたって、調査方法を指導する研究者を招聘した。また、性格がはっきりしない遺物や、考古学以外の分析を必要とする遺物について指導を仰ぐため、調査員を各研究者のもとに派遣した。

特別調査員

所 属・氏 名	指 導 内 容	場 所	日 程
文化庁文化財保護部記念物課 主任調査官 岡村道雄	東九州自動車道関連遺跡調査指導	埋蔵文化財センター国富分室 上ノ原遺跡	平成10年5月7日 5月8日
愛媛大学法文学部 助教授 村上恭通	柿迫遺跡発掘調査指導	埋蔵文化財センター神宮本館 柿迫遺跡	平成10年6月18日 ～6月20日
宮崎大学教育学部 教授 柳沢一男	迫内遺跡発掘調査指導	宮崎市迫内遺跡	平成10年9月11日
熊本大学文学部 助教授 小畑弘己	林遺跡調査指導（旧石器等遺物）	埋蔵文化財センター神宮本館	平成10年9月25日 ～9月26日
都城市文化課 主事 桑畑光博	古城遺跡出土遺物整理指導（縄文）	埋蔵文化財センター神宮本館	平成10年9月25日 ～26日
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事 富田逸郎	王子原遺跡出土遺物整理指導（縄文）	埋蔵文化財センター神宮本館	平成10年9月25日 ～9月26日
鹿児島大学農学部 教授 西中川 駿	林遺跡牛馬骨調査指導	延岡市林遺跡	平成10年10月30日
(財)元興寺文化財研究所 藤澤典彦	迫内遺跡石塔群調査指導	宮崎市迫内遺跡	平成10年11月18日 ～11月19日
六戸地質研究所 所長 六戸 章	東九州自動車道関係遺跡出土石器石 材鑑定	埋蔵文化財センター国富分室	平成10年11月20日 12月21日 12月24日
佐賀県立九州陶磁資料館 資料係長 鈴田由紀夫	鶴野内中水流遺跡出土陶磁器等鑑定 及び整理指導	埋蔵文化財センター神宮本館	平成11年1月31日 ～2月2日
宮崎大学教育学部 教授 柳沢一男	迫内遺跡発掘調査指導	宮崎市迫内遺跡	平成11年2月16日
東国歴史考古学研究所 所長 田代郁夫	迫内遺跡発掘調査指導	宮崎市迫内遺跡	平成11年3月3日 ～3月4日
六戸地質研究所 所長 六戸 章	東九州自動車道関係遺跡出土石器石 材鑑定	埋蔵文化財センター国富分室	平成11年3月4日 3月24日

資料調査

目 的	出 張 先	日 程	出張者
東九州自動車道関係遺跡報告書作成に伴う資料調査	串間市役所	平成10年8月25日	面高哲郎 園田和宏 田内幸子
東九州自動車道関係遺跡報告書作成に伴う資料調査	鹿児島県始良町	平成10年10月13日	菅付和樹 日高広人
埋蔵文化財発掘調査運営事務調査	鹿児島県始良町	平成10年10月13日	吉田秀子
水田遺跡の発掘方法調査	群馬県高崎市(東日本の水田跡を考える会「水田跡調査の現状と課題」)	平成10年10月31日 ～11月1日	甲斐貴充
東九州自動車道関係遺跡報告書作成に伴う資料調査	鹿児島県加世田市	平成10年11月25日	高山富雄 園田和宏 菅付和樹 田内幸子
林遺跡出土人骨、牛馬骨鑑定依頼及び中世遺跡発掘方法調査	鹿児島大学農学部(西中川駿教授) 鹿児島大学歯学部(竹中正巳助手) 鹿児島県金峰町 農業センター遺跡群・持躰松遺跡	平成10年12月7日 ～12月8日	東 憲章
東九州自動車道関係遺跡報告書作成に伴う資料調査	鹿児島県末吉町	平成10年1月26日	面高哲郎 高山富雄 日高裕司 崎田一郎 田内幸子
枯木ヶ迫遺跡出土陶磁器資料調査 農用地総合整備関係遺跡資料調査	佐賀県西松浦郡有田町(第9回九州近世陶磁学会) 佐賀県立九州陶磁文化館	平成11年2月20日 ～2月21日	和田理啓 廣田晶子
東九州自動車道関係遺跡報告書作成に伴う資料調査	熊本県人吉市教育委員会文化課	平成11年2月24日	菅付和樹 木本 剛 日高広人
内屋敷遺跡報告書作成資料調査	熊本県人吉市教育委員会文化課	平成11年2月24日	甲斐貴充
竹ノ内遺跡及び東九州自動車道関係遺跡報告書作成に伴う資料調査	鹿児島県垂水市教育委員会収蔵庫 鹿児島県立埋蔵文化財センター	平成11年3月2日 ～3月3日	高山富雄 菅付和樹 山田洋一郎 日高広人

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。平成10年度に整理を実施した遺跡は22遺跡で、内訳は東九州自動車道関係及び高千穂バイパス等国、公団、公社からの受託事業が8遺跡、県土木部関係2遺跡、県農政水産部関係4遺跡、県教育委員会関係6遺跡、市町村事業2遺跡である。整理作業の終了した7遺跡について発掘調査報告書を刊行し、東九州自動車道関連調査については、概要報告書を作成した。

出土遺物等整理実施遺跡一覧

	遺 跡 名	事 業 名	原 因 者
1	高千穂バイパス遺跡群	国道218号高千穂バイパス建設	建設省九州地方建設局延岡工事事務所
2	林遺跡	延岡道路建設	建設省九州地方建設局延岡工事事務所
3	石用遺跡	東九州自動車道宮崎西インター建設	建設省九州地方建設局宮崎工事事務所
4	前田遺跡	国道10号宮崎北バイパス建設	建設省九州地方建設局宮崎工事事務所
5	右葛ヶ迫遺跡	国道220号青島バイパス	建設省九州地方建設局宮崎工事事務所
6	東九州自動車道関係	東九州自動車道建設	日本道路公団九州支社宮崎工事事務所
7	市位遺跡	希望ヶ丘西区画整理事業	宮崎県住宅供給公社
8	荒迫遺跡	宮崎フリーウェイ工業団地造成	宮崎県土地開発公社
9	布平遺跡	県営広域営農団地農道建設	宮崎県西臼杵支庁農政水産課
10	牧ノ原第2遺跡	総合農業試験場畑作支場建設	宮崎県農政水産部農政企画課
11	時屋地区遺跡	時屋地区県営農地保全整備事業	宮崎県農政水産部中部農林振興局
12	大鹿倉遺跡(1次)	畜産試験場基盤整備事業	宮崎県農政水産部畜産課
13	鶴野内中水流遺跡	特定交通安全施設整備事業(「道の駅」)	宮崎県土木部日向土木事務所
14	頭田遺跡	鬼付女川障害防止対策事業	宮崎県土木部高鍋土木事務所
15	内屋敷遺跡	県立小林高等学校体育コース生徒寮建設	宮崎県教育庁学校施設課
16	西下本庄遺跡	県立本庄高等学校運動場整備事業	宮崎県教育庁学校施設課
17	寺崎遺跡(6次)	国衙跡保存整備基礎調査事業	宮崎県教育庁文化課
18	中近世城跡	中近世城跡分布調査事業	宮崎県教育庁文化課
19	西都原古墳群	地方拠点史跡等総合整備事業	宮崎県教育庁文化課
20	試掘・確認調査	農業基盤整備事業・緊急調査	宮崎県教育庁文化課
21	中野内遺跡	ほ場整備事業	北浦町
22	一本松遺跡	公園整備事業	高城町

発掘調査報告書

	巻 号	報告書名	サブタイトル	執筆者	備 考
1	発掘調査報告書 第13集	・上の原第3遺跡	県営農地保全事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	東 憲章	縄文時代,古墳時代集落
2	発掘調査報告書 第14集	・内屋敷遺跡	県立小林高等学校生徒寮建設に伴う発掘調査報告書	甲斐貴充 東 憲章	縄文早期平地式住居11軒, 弥生竪穴住居
3	発掘調査報告書 第15集	・西下本庄遺跡	県立学校運動場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	松林豊樹	古墳時代,古代中心の大遺跡
4	発掘調査報告書 第16集	・鶴野内中水流遺跡	特定交通安全施設整備事業に伴う発掘調査報告書	高橋 誠	弥生,古墳の集落
5	発掘調査報告書 第17集	・神殿遺跡B・C地区 ・南平第3遺跡 ・南平第4遺跡 ・中ノ平遺跡	国道218号高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書	戸高真知子 谷口武範 松林豊樹	縄文から中世までの遺構と遺物,弥生土器や古墳初頭の土器及び同時期の集落の報告
6	発掘調査報告書 第18集	・上牧第2遺跡 ・母智丘原第2遺跡	九州農業試験場畑地利用部施設整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	久木田浩子 高橋 誠	縄文後期土器,古墳時代の集落等
7	発掘調査報告書 第19集	・牧ノ原第2遺跡	総合農業試験場畑作園芸支場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	久木田浩子	畠遺構等
8	発掘調査報告書 第20集		東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ(概要報告書)		平成10年度調査の概要報告

(4) 保存処理

保存処理室では、鉄製品や木製品を保存処理している。宮崎県は、地下式横穴墓から多量の鉄製品が良好な状態で出土するため、年次的に鉄製品保存処理関係機器を整備してきた。木製品については、PEG含浸装置等が未設置のため、委託あるいはバキュームシーラーでのパッキング等で対応している。また、市町村教育委員会からの備品の利用や保存処理の依頼等についても受入れている。

保存処理・調査研究関係備品一覧

設置場所	機器名	製品名(規格)	製造会社名	購入年度	備考
鉄器保存処理室	送風定温乾燥器	DN-61型	ヤマト科学	1983	漏電ブレーカー付
鉄器保存処理室	定温乾燥器	DN-94型	ヤマト科学	1992	
鉄器保存処理室	鉄器樹脂含浸装置	300×1200		1983	
鉄器保存処理室	精密噴射加工機			1983	
鉄器保存処理室	精密噴射加工機	バリーブラスト50N	トーワ技研	1992	
鉄器保存処理室	小型グラインダー	ミニタースタンダード	関東機器株式会社	1993	
鉄器保存処理室	軟X線装置	ソフテックスSPC-1501	ソフテックス	1991	TVシステム付
鉄器保存処理室	小型空気圧縮機		日立	1983	
鉄器保存処理室	ドラフトチャンバー	CSF-K15	島津理化	1992	
木器保存処理室	脱塩洗浄処理装置		瀧口製作所	1992	
一次処理室	超音波洗浄器	5200 J4	シャープ	1991	
一次処理室	卓上バキュームシーラー	SQ-202	サランラップ販売	1991	SQドレン付き
復元整理室	実体顕微鏡	SMZ-2T	ニコン	1991	写真撮影装置等一式
写 場	赤外線TVカメラ	IRRS-100	浜松ホトニクス	1992	

(5) 収蔵整理

報告書作成が終了した遺跡の遺物、図面、写真などを適切に管理し一般に公開するため、収蔵整理を実施している。また、全国から寄贈された発掘調査報告書や購入書籍、雑誌等についても台帳を作成し分類後図書室に配置している。これら資料類を関連づけて検索できるデータベースの構築が今後の課題となっている。

① 発掘調査資料

平成10年度までにセンターに収蔵された資料数は延べ229遺跡分、コンテナ数で8,448箱になり、鉄、木製品の数は約850点を数える。報告書作成が終了した遺跡から順次登録台帳を作成しているが、台帳の作成は遺物、遺物実測図、遺構実測図、写真、コンテナ、収蔵棚の項目を設け各々に番号を付し、必要な資料について検索できるようにしている。10年度現在、遺物及び遺物実測図については65遺跡、遺構実測図については35遺跡分の整理が終了した。遺物はコンテナ収蔵を基本とし、コンテナ外面に遺物登録番号、コンテナ番号、棚番号等を表示している。

平成10年度収蔵整理実施遺跡

	遺跡名	所在地		遺跡名	所在地
1	学頭・八兒	東諸県郡高岡町	6	平原	えびの市
2	吾平原第2	西臼杵郡高千穂町	7	妙見	えびの市
3	宮ノ前第2	西臼杵郡高千穂町	8	谷合第2	南那珂郡北郷町
4	城ノ平	西臼杵郡高千穂町	9	大塚	南那珂郡北郷町
5	野首	えびの市	10	鳩園(東霧島神社)	北諸県郡高崎町

② 図書資料

全国から送られてくる発掘調査報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成10年度は2,372冊の受入れがあり、累計収蔵数は28,290冊になる。図書類はパソコンによるデータベース登録を実施している。

2 教育普及活動

センター展示部門では、年4回「コーナー展」として最新の発掘成果を速報的に展示し、あわせて遺物整理作業を見学できるようになっている。また、毎月第4土曜日には埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」を開催し、11月の文化財保護強調週間には「施設公開」を実施している。さらに、埋蔵文化財の発掘調査成果を広く公開するため「現地説明会」を実施するなど、直接埋蔵文化財に触れることができるよう各種の普及活動を実施した。

(1) 展 示

- ・常設展示
埋蔵文化財の保護と宮崎の歴史
文化財保護法と発掘調査の流れに関する解説
- ・コーナー展

展 示 テ ー マ	展 示 期 間	展 示 内 容
生活の中の文字（古代）	平成10年2月4日 ～5月31日	宮崎市余り田遺跡など古代の遺跡から出土した土器に書かれた文字の紹介
旧石器から縄文時代の生活	平成10年6月4日 ～10月4日	生業の痕跡や道具など、発掘資料からわかる旧石器・縄文時代の生活を紹介
古代の食料作り（縄文から古代）	平成10年10月8日～ 平成11年2月7日	食料を獲得したり生産した痕跡－陥穴や炉穴、畠や水田、道具等の紹介
古代人の住い（縄文から古代）	平成11年2月11日 ～6月6日	竪穴住居や掘立柱建物など古代人の住居や建物を遺構写真や復元図で紹介

(2) 埋蔵文化財講座「遺跡をたずねて」

毎月第4土曜日の午後1時半から3時まで、講座を実施している。講師は県文化課、県内市町村専門職員、埋蔵文化財センター職員がつとめ、平成10年度は「旧石器・縄文時代の生活」という年間テーマのもと12回の講座を開講した。

①講座

開 催 日	講 座 の 内 容	講 師	受講者数
平成10年4月25日	旧石器時代の概説	宮崎県文化課 重山郁子	22名
5月23日	縄文時代の概説	宮崎県埋蔵文化財センター 面高哲郎	39名
6月27日	旧石器時代の生活と道具	宮崎県埋蔵文化財センター 倉永英季	42名
7月25日	旧石器時代の遺跡（長蘭原遺跡）	宮崎県埋蔵文化財センター 時任和守	42名
8月22日	旧石器時代の遺跡（上ノ原遺跡）	宮崎県埋蔵文化財センター 木本 剛	35名
9月26日	シンポジウム「旧石器時代から縄文時代の生活を考える」	下記参照	146名
10月24日	縄文時代の立地と環境	延岡市教育委員会 山田 聡	39名
11月28日	縄文時代の用具（土器・石器）	宮崎県埋蔵文化財センター 小山 博	30名
12月26日	縄文時代の生活（住居）	宮崎県埋蔵文化財センター 久木田浩子	42名
平成11年1月23日	縄文時代の生活（生活遺構）	宮崎県埋蔵文化財センター 日高裕司	35名
2月27日	縄文時代の遺跡（白ヶ野遺跡）	宮崎県埋蔵文化財センター 川崎辰巳	42名
3月27日	縄文時代の遺跡（竹ノ内遺跡）	宮崎県埋蔵文化財センター 松林豊樹	24名

②シンポジウム

9月の講座は、シンポジウム形式で県民文化ホールにおいて開催した。

テ ー マ : 「旧石器時代から縄文時代の生活を考える」

開 催 日 時 : 平成11年9月26日午後1時～4時

開 催 場 所 : 宮崎県総合博物館県民文化ホール

参 加 料 : 無料

シンポジウム講師・パネリスト及び講演内容

杉山真二氏（古環境研究所）

小畑弘己氏（熊本大学）

「東北アジアにおける完新世移行期の文化と生業」

富田逸郎氏（鹿児島県埋蔵文化財センター）

「南九州の定住の開始と展開」

榎畑光博氏（都城市教育委員会）

日高広人（宮崎県埋蔵文化財センター）

「宮崎県の移行期の遺跡」

司 会 菅付和樹（宮崎県埋蔵文化財センター）

(3) 施設公開

文化財保護強調週間の行事として施設公開を実施した。

開催期日	内 容	参加者数
平成10年11月14日(土) 午前10時～午後4時	・施設や整理作業の見学 ・赤外線カメラによる墨書土器の観察 ・軟X装置による鉄器観察 ・実体顕微鏡による土器胎土の観察 ・拓本、土器接合等の体験作業 など	

(4) 現地説明会

平成10年度は2遺跡で説明会を実施した。

遺跡名	所在地	開催日	内 容	参加者
1 林 遺跡	延岡市伊形町	平成10年12月23日 13:30～15:30	調査の契機は建設省の延岡道路建設。旧石器時代から近世の遺構遺物が検出され、説明会では古墳時代の竪穴住居跡や中近世の大型掘立柱建物群、近世の牛馬埋葬土壌などを紹介。	180名
2 迫内遺跡	宮崎市富吉	平成11年3月31日 10:00～12:00	調査の契機は日本道路公団の東九州自動車道建設。古墳時代から近世にかけての遺構遺物が検出され、説明会では丘陵上に築造された古墳時代前期の小古墳3基と後期の横穴墓、岩盤に刻まれた中世の線刻板碑等を紹介した。	20名 (雨天)

(5) 埋蔵文化財専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内 容	場 所	日 程	参加者数
講 演 「鉄に関する遺物・遺構の調査法と研究の現状」 愛媛大学法文学部助教授 村上恭通	宮崎県総合博物館第一 研修室	平成10年6月18日 ～6月19日	97名
講 義 「年代決定法」 宮崎県埋蔵文化財センター 日高広人			
事例報告 「村落調査による中近世村落景観復元」 都城市教育委員会 浜田教靖			
事例報告 「北方町の文化財編集作業からみた村落景観」 北方町教育委員会 小野信彦			
協 議 「発掘情報公開について」			

(6) 広報出版物

埋蔵文化財保護啓発活動の一環として「埋蔵文化財 みやざき」の発行や埋蔵文化財講座、施設公開等についてもポスターやパンフレットを作成した。

	刊 行 物 名	発 行 日
1	シンポジウム『旧石器時代から縄文時代の生活を考える』資料集	平成10年6月
2	宮崎県埋蔵文化財センター年報第2号(平成9年度)	平成10年12月
3	埋蔵文化財通信「みやざき」第3号	平成10年8月
4	平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧	平成10年12月
5	平成11年度宮崎県埋蔵文化財センター事業案内	平成11年3月

(7) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には館内利用（資料の閲覧・実測等）と館外貸出及び掲載許可があり、平成10年度は館内利用が13件、館外貸出が4件、掲載許可が1件であった。

館内利用

資料名	利用者	利用目的	利用日
天神河内第一・田代ヶ八重・内野々・生駒・上の原第一・赤坂遺跡出土縄文前期～中期土器（深浦式、春日式、船元式等）	鹿児島大学法文学部人文科学研究科 相美伊久雄	修士論文	平成10年8月28日 ～8月29日
天神河内第一遺跡出土塞ノ神式土器等	別府大学文学部史学科 重留康宏	卒業論文	平成10年9月1日
下屋野・上の原第一・白ヶ野・松元・塚原C・木脇・長藪原・下屋敷・上ノ原・別府原・南学原第一・南学原第二・井野遺跡等出土の細石核	広島大学文学部 大川泰広		平成10年9月8日 ～9月18日
矢野原遺跡Ⅸ区出土石核、剥片等一括	別府大学文学部史学科 志賀智史		平成10年9月29日
熊野原A、熊野原C、野稲尾、鬼付女西、松ヶ迫B遺跡周溝状遺構出土弥生土器一括	鹿児島大学法文学部 井上隆広	卒業論文	平成10年10月21日
妙見・天神河内第一・北ノ迫遺跡出土石鏃等	筑波大学 馬籠亮道	資料収集	平成10年10月25日 ～10月28日
井野・池増遺跡出土細石器一括	別府大学文学部史学科 上高原 聡	卒業論文	平成10年11月3日
妙見・霧島遺跡出土縄文早期土器	別府大学文学部 遠部 慎	修士論文	平成10年11月24日
竹ノ内遺跡出土軽石製岩偶、土偶	鹿児島大学法文学部人文科学研究科 寒川朋子	修士論文	平成10年12月11日
日向国府・国分寺関連 瓦資料調査	鹿児島県始良町歴史民俗資料館 下鶴 弘 ほか1名	資料調査	平成11年1月21日
余り田遺跡出土墨書土器	荒木志伸	学術研究	平成11年2月10日
赤木遺跡出土瀬戸内技法関連接合資料等	同志社大学文学部 森川 実	学術研究	平成11年2月15日 ～2月19日
県内遺跡出土繊維製品	東京国立博物館学芸部 考古課 原史室長 有史室長 主任調査官 東洋課 北東アジア室長 法隆寺宝物室 主任調査官 松浦有一郎 望月 幹夫 古立 毅 谷 豊信 沢田むつ代	文部省科学研究助成金による「日本出土原始古代繊維製品の集成及び基礎的研究」（研究代表：松浦有一郎）	平成11年3月25日 ～3月26日

館外貸出

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
高岡麓遺跡出土 土師器甕 丸底埴 土師器鉢 土師器碗	2点 2点 1点 1点	高岡町役場内で展示公開し文化財に対する理解を深める。	平成10年7月6日～ 平成11年8月3日	高岡町教育委員会
学頭遺跡出土 甕 鉢	1点 1点	同上	平成11年1月20日～ 平成11年2月21日	高岡町教育委員会
立切地下式横穴群スライド写真	19葉	文化財保護に関する講演で映写説明する。	平成11年2月9日～ 平成11年2月15日	丸目恵教
田上遺跡出土縄文早期土器 内山城跡出土縄文早期土器	1点 1点	組織痕土器展示用レプリカ作成	平成11年2月27日～ 平成11年4月1日	宮城県 一迫町教育委員会

刊行物掲載（写真提供）

資料名	掲載刊行物名	依頼者	申請日
埋蔵文化財センター全景	「るるぶ情報版 宮崎98」	バナナプロ	平成9年10月7日

（8）研修・体験学習等の受入れ

研修の一環として埋蔵文化財センターの見学や調査現場での体験学習を取入れる学校、教育機関が増えている。平成10年度は中学校1校（1回）、高等学校3校（4回）、県教育研修センター3回の見学・実習があった。また、運営状況等の視察も6件あった。これ以外にも、多くの各種学級、史談会等が訪れている。

見学・研修・体験学習

内容	場所	依頼者	実施日	参加者数
特別研修講座（第一期）施設見学	埋蔵文化財センター本館	宮崎県教育研修センター	平成11年6月9日	27名
埋蔵文化財センター見学	埋蔵文化財センター本館	京都大学考古学研究室	平成10年7月8日	30名
3年「職場体験学習」	埋蔵文化財センター本館	宮崎県立宮崎南高等学校	平成10年7月23日	4名
文科情報科1年「職場訪問」	埋蔵文化財センター本館	宮崎県立大宮高等学校	平成10年8月4日	6名
埋蔵文化センター見学	埋蔵文化財センター分室	国富町教育研究会郷土学習研究部会	平成10年8月27日	19名
考古学実習	埋蔵文化財センター本館 宮崎市郡司分枯木ヶ迫遺跡	大手前女子大学 鈴木麻美	平成10年9月7日 ～9月11日	
「職場体験学習」	埋蔵文化財センター分室	宮崎市立赤江中学校	平成10年9月30日	14名
埋蔵文化財発掘調査視察研修	都城市安久町王子原遺跡	都北社会教育協会	平成10年9月18日	8名
自治公民館婦人部視察研修	埋蔵文化財センター本館	高鍋町教育委員会	平成10年11月9日	22名
特別研修講座（第二期）施設見学	埋蔵文化財センター本館	宮崎県教育研修センター	平成10年11月5日	27名
「地域学習」	宮崎市郡司分枯木ヶ迫遺跡	宮崎県立宮崎南高等学校	平成10年11月20日	83名
団体見学	埋蔵文化財センター本館	宮崎県立宮崎西高等学校	平成10年11月21日	507名
「ふるさと歴史講座」見学	埋蔵文化財センター本館	宮崎市生目公民館	平成10年12月16日	40名
特別研修講座（第三期）施設見学	埋蔵文化財センター本館	宮崎県教育研修センター	平成11年1月29日	30名

視察等

来館者	来館日	目的
愛知県史編さん委員会考古部会 愛知県総務部県史編さん室 調査執筆委員 井上喜久男 主事 城ヶ谷和広	平成10年4月20日	宮崎県内遺跡出土の三彩・ 緑釉陶器の調査
京都大学大学院文学研究科考古学研究室 教授 上原真人 助手 森下章司	平成10年7月8日	施設見学(研究室巡見)
鹿児島県垂水市教育委員会 文化財主事 羽生文彦 主事 鶴飼一伸	平成10年7月30日	竹内遺跡出土岩偶調査
沖縄県教育庁文化課 副参事 知念 勇 主任 金城清光	平成10年8月19日	埋蔵文化財センター組織運 営等調査
鹿児島県立埋蔵文化財センター調査課 文化財主事 長野真一 文化財研究員 今村敏照 文化財研究員 福永修一	平成10年9月29日	後期旧石器収蔵品実見 発掘現場視察
鹿児島県立埋蔵文化財センター調査課 文化財主事 大保秀樹 文化財主事 児玉健一郎 文化財研究員 有馬孝一	平成10年11月24日	後期旧石器収蔵品実見 縄文時代早期土器実見

(9) 会議・職員研修

奈良国立文化財研究所で実施している発掘技術者研修や、全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内 容	日 程	開 催 地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	平成10年5月21日・5月22日	愛知県名古屋市	田中 守 面高哲郎
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議	平成10年9月3日・9月4日	岡山県岡山市	児玉和昭
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第11回研修会	平成10年11月5日・11月6日	島根県松江市	菅付和樹 谷口武範
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘技術者研修「測量外注管理課程」	平成10年10月1日～10月15日	奈良県奈良市	甲斐貴充
第5回東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査3県協議会	平成11年1月19日・1月20日	大分県大分市	面高哲郎 時任和守 大坪博子 吉田秀子

(10) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い諸機関、団体主催、講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。平成10年度は調査指導15件、調査協力3件、講演・会議等8件であった。

調査指導等（派遣）

内 容	派 遣 期 日	依 頼 者	派 遣 職 員
中野内遺跡出土品展示指導	平成10年4月17日	北浦町教育委員会	谷口武範
酒元ノ上横穴群確認調査引継	平成10年5月27日・6月23日	宮崎県文化課	日高広人
須田木遺跡資料整理打合わせ	平成10年7月9日	清武町教育委員会	山田洋一郎 小山 博
宮地遺跡発掘調査指導	平成10年7月30日	須木村教育委員会	谷口武範
中須第3遺跡発掘調査指導	平成10年8月3日	野尻町教育委員会	谷口武範
仲野原遺跡発掘調査指導	平成10年8月18日	東郷町教育委員会	菅付和樹
中近世城館跡緊急分布調査	平成10年6月23日 平成10年9月9・11・29・30日 平成10年10月8・9日 平成10年12月7日 平成11年2月5・25日	宮崎県文化課	崎田一郎 橋本英俊
百足塚写真撮影調査指導	平成10年10月8日	新富町教育委員会	東 憲章
上野原遺跡調査指導	平成10年11月11日	東郷町教育委員会	菅付和樹
石河内本村遺跡遺物整理指導	平成10年12月1日	木城町教育委員会	菅付和樹
石河内本村遺跡遺物整理指導	平成11年1月18・25日	木城町教育委員会	菅付和樹
中野原遺跡調査指導	平成11年1月18日	東郷町教育委員会	石川悦雄
中近世城館跡緊急分布調査	平成11年2月3・23日・3月8・16日	宮崎県文化課	崎田一郎
西門川地区赤木遺跡調査指導	平成11年2月9日	門川町教育委員会	菅付和樹
速日峰遺跡群調査指導	平成11年3月23・24日	北方町教育委員会	福田泰典
町内遺跡確認調査指導	平成11年3月24・25日	北方町教育委員会	面高哲郎

調査等協力（来館）

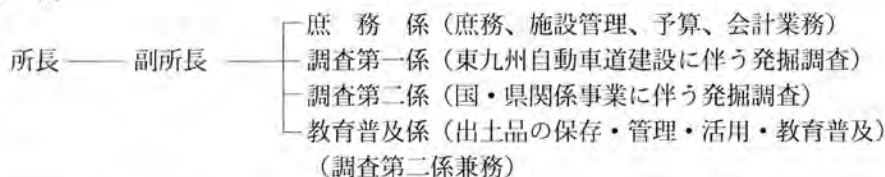
協 力 内 容	日 付	依 頼 機 関	場 所
遺物整理作業研修	平成10年6月19日	山田町教育委員会	埋文センター
生目古墳群史跡整備に係る棟札赤外線カメラ撮影	平成10年10月14日	宮崎市教育委員会	埋文センター
石河内本村遺跡遺物整理研修	平成10年11月25日	木城町教育委員会	埋文センター

講演・会議等

行事名	内容	期日	依頼者	場所	派遣職員
中近世城館緊急分布調査第一回調査指導委員会	報告書作成打合わせ等	平成11年5月11日	宮崎県教育庁文化課	みやざき会館	福田泰典 崎田一郎 橋本英俊 下田代清海
宮崎県高等学校教育研究会地理歴史科公民科研究会中部支部総会	「縄文時代の宮崎」	平成10年5月25日	宮崎県高等学校教育研究会地理歴史科公民科研究会	宮崎商業高等学校多目的教室	菅付和樹
北川町教育会社会科部会	「社会科学習のあり方について」	平成10年11月19日	北川町教育会	宮崎県埋蔵文化財センター研修室	鈴木健二
宮崎県高等学校教育研究会理科・地学部会	「火山灰考古学」	平成10年11月19日	宮崎県高等学校教育研究会理科部会	宮崎県総合博物館第一研修室	青山尚友
衛星通信による公民館等の学習機能高度化推進事業プログラム開発についての打合わせ会議	放送プログラム打合わせ	平成11年1月12日	宮崎・島根国立大学衛星通信利用推進協議会	宮崎大学生涯学習教育研究センター	石川悦雄
衛星を利用した大学公開講座「古代ひむかといづも」	西都原13号墳解説	平成11年2月6日	宮崎・島根国立大学衛星通信利用推進協議会	宮崎県総合博物館西都原古代生活体験館	石川悦雄
佐土原町広瀬地区郷土史同好会二月例会	「築城の話」	平成11年2月14日	佐土原広瀬地区郷土史同好会	佐土原町中央公民視聴覚室	福田泰典
第2回考古年表作成検討会	年表作成中間報告等	平成11年2月14日	宮崎県総務部県史編さん室	県史編纂室会議室	菅付和樹 谷口武範 東 憲章

II 組織・施設

組織



所長	田中 守	主査	川崎 辰巳	調査第二係	
係長	児玉 和昭	主査	倉永 英季	係長	青山 尚友
主任主事	吉田 秀子	主査	菅付 和樹	主査	石川 悦雄
主任主事	磯貝 政伸	主査	日高 裕二	主査	南正覚 雅士
		主査	松原 宗一	主査	鈴木 健二
		主査	吉牟田 浩一	主査	谷口 武範
		主査	鳥原 孝仙	主任主事	福田 泰典
		主任主事	日浅 雅道	主任主事	東 憲章
		主任主事	崎田 一郎	主事	和田 理啓
		主任主事	木本 剛	主事	高橋 誠
		主任主事	福松 東一	主事	久木田 浩子
		主任主事	柳田 益宏	主事	甲斐 貴充
		主事	橋本 英俊	(嘱託)	
		主事	大坪 博子	整理専門員	津隈久美子
		主事	日高 広人	調査員	下田代清海
		(嘱託)		調査員	黒木 欣綱
		調査員	田内 幸子	調査員	柳田 晴子
		調査員	曾根崎香織	調査員	橋川 敬子
				調査員	廣田 晶子
庶務係					
係長	児玉 和昭				
主任主事	吉田 秀子				
主任主事	磯貝 政伸				
調査第一係					
係長	面高 哲郎				
主査	園田 和博				
主査	山田洋一郎				
主査	戸高真知子				
主事	小山 博				
(高速道対策局・併)					
主査	時任 和守				
主査	高山 富雄				
主査	江田 誠				
主査	高橋 祐二				

施設

(神宮本館)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

床面積 1,649.0㎡

開館日 昭和57年10月2日

1階	一次処理室	121.2㎡	2階	写場・暗室	49.4㎡
	復元整理室	148.3㎡		図書室	35.1㎡
	保存処理室	49.3㎡		研修室	53.1㎡
	鉄器	26.6㎡		収蔵整理室	19.3㎡
	木器	22.7㎡		収蔵室	564.0㎡
	整理研究室(兼事務室)	172.0㎡		特別収蔵室	54.0㎡
	所長室	13.0㎡			
	展示室	150.0㎡			
	器材庫	11.0㎡			

(国富分室)

構造 コンクリート造平屋

プレハブ構造 平屋

事務室

実測室

トレース室

総床面積 754.0㎡

整理室 202.0㎡

休息室 43.0㎡

その他 262.3㎡

Ⅲ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事項
1980 1981 1982	昭和55 56 57. 1. 9 7.29 10. 2	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案 基本設計を実施 起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、 兼務職員8名、嘱託2名発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」（講師：国立民 族学博物館教授 佐々木高明）。
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山転出、菅付和樹転入）
1985	60.11. 2	文化財保護協調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群-遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行。 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平成 1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳-遺物編」刊行。 兼務職員が13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡-資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。 設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展 '82-'91」を開催する。 脱塩装置・赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9.15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設。
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置。
1995	7. 1.29 2.16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成。 屋根防水工事完了。 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第1係、 第2係、教育普及係（第2係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第1係（東九州自 動車道担当）を置く。
1997	9. 3.17	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名になる。

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(平成 8. 3. 29 教育委員会規則第 5 号)

(趣 旨)

第 1 条 この規則は別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事 業)

第 2 条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

1. 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
2. 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
3. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
4. 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
5. 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
6. その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組 織)

第 3 条 埋蔵文化財センターに、次に掲げる係を置く。

庶 務 係
調査第一係
調査第二係
教育普及係

(分掌事務)

第 4 条 前条の各係の分掌事務は、次のとおりとする。

庶 務 係

1. 職員の人事、給与及び服務に関すること。
2. 予算の執行及び決算に関すること。
3. 文書の収受及び発送に関すること。
4. 公印の管守に関すること。
5. 施設及び設備の管理運営に関すること。
6. その他他の係の所管に属さない事項に関すること。

調査第一係

1. 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
3. 第 1 号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

調査第二係

1. 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
2. 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
3. 第 1 号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

教育普及係

1. 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
2. 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
3. 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸し出しに関すること。
4. 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第 5 条 埋蔵文化財センターに次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表右欄に掲げるとおりとする。

職	職	務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。	
副 所 長	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。	
係 長	上司の命を受けて、係の事務を処理する。	
主 任 主 事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。	
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。	

2. 前項に規定する職のほか、必要に応じ、埋蔵文化財センターに次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
副 参 事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を処理する。
主 任	上司の命を受けて、専門的業務を処理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要な応じ、その他の職員の職として技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休 館 日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

1. 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。）
2. 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。）
3. 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで。
4. 特別整理期間（あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。）
- 2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項各号に掲げる日に開館し、又は同項各号に掲げる日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

1. 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
2. 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
3. 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
4. 条例若しくは規制又は所長の指示に従わないとき。
5. 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書（別記様式第1号）を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

1. 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部大臣が博物館に相当する施設として指定したもの
2. その他所長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第2号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
 1. 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 2. 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 3. 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁 償)

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委 任)

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの運営管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則（抄）

(施行期日)

1. この規則は、平成8年4月1日から施行する。

別記

様式第1号（第10条関係）

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

（法人にあっては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

（法人にあっては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館外貸出しを受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

宮崎県埋蔵文化財センター年報第3号
平成10年度（1998）

編集・発行：宮崎県埋蔵文化財センター
880-0053

宮崎市神宮2-4-4

発行日：平成12年3月

印刷：小柳印刷株式会社
宮崎市旭1丁目6-25



位置

- 観覧時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日
毎週月曜日
国民の祝日の翌日
年未年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 無料

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎市神宮2丁目4-4 (〒880-0053)
TEL 0985-21-1600
FAX 0985-26-2634

- 宮崎神宮駅(JR)一徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス一神宮終点下車徒歩10分
- 綾・国富・平和が丘行きバス一「博物館前」下車徒歩2分